

平成27年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：イネ・いもち病（No. 1）

苗いもち防除の徹底について

平成27年4月27日
鳥取県病害虫防除所

昨年のイネいもち病の多発生により、本年は苗いもちの発生リスクが高いと考えられます。現在、気温の高い日が続いており、4月23日発表の1ヶ月予報によると、今後も気温が高い状態が続くと予想されています。この時期の高温は、苗いもちの発生を助長することから、以下のとおり適切な育苗管理と予防防除の徹底が必要です。

1 苗いもちの発生リスクの高い地域および条件

- ① 昨年いもち病が多発生した地域、② これまでに苗いもちが発生したことがある地域、③ 5月下旬以降に移植のハウス育苗、④ 6月以降に移植の育苗、⑤ 育苗期の気温が高い年。

2 苗いもちの予防防除

（1）適切な育苗管理

育苗準備	・稲わらやもみ殻等（病原菌が付着）を持ち込まない。 ・清潔な場所で種子の保管や育苗を行う。
は 種	・厚まきは発生を助長するので適切な種量とする。 ・種もみが露出すると発生を助長するので、覆土をしっかりと行う。
育苗管理	・高温多湿は厳禁、ハウス育苗は特に注意する。 ・育苗期間の長期化は発生を助長するので、適切な期間で育苗する。

※ 比重選を行っていない場合は、比重選（塩水選）を行いましょう（JA購入種子は比重選済み）。
温湯消毒を行っていない種子は種子消毒を行いましょう。

（2）は種後覆土前、育苗期の薬剤防除

処理時期	薬剤名（希釈倍数等）	備 考
は種後覆土前	カスミン液剤（4倍、50 ml/箱）	・カスミン粒剤（15～20 g/箱）もありますが、登録は幼苗腐敗症（もみ枯細菌病）、褐条病、苗立枯細菌病です。
育 苗 期 （本葉1.5～2葉期）	ビームゾル（1,000倍） ダブルカットフロアブル（1,000倍） ブラシンフロアブル（1,000倍）等	・展着剤を加えて散布。 ・いもち病に効果のある粉剤でも防除可能。

(3) その他の参考事項

- ア 苗いもちは本田での重大な葉いもち発生源となるだけでなく、多発生した苗を移植すると本田で枯死します。また、発病初期または潜伏期間中の苗を発病に気づかないまま移植した場合は、大規模なずり込みにつながります。
- イ 苗いもち発生苗を移植した場合は、抵抗性誘導型等の育苗箱施用剤（イソチアニル剤、プロベナゾール剤等）を使用しているにもかかわらず、十分な葉いもち防除効果が得られないことがあります。
- ウ 本県では、ストロビルリン系薬剤耐性菌の発生により、本年度から本系統薬剤の使用を控えるよう指導しています。